

<問題1>

(注解15)

将来の期間に影響する特定の費用は、次期以降の期間に配分して処理するため、経過的に貸借対照表の()に記載することができる。

- ① ()に入る文字を記しなさい [資産の部]
- ②この項目が計上される表示区分を述べよ [繰延資産]
- ③この項目を次期以降の期間に配分して処理する根拠を次の2つのキーワード[発現・対応]をまじえて述べなさい。

将来の期間に影響する特定の費用は、役務の提供をすでにうけ、かつ支払いもすでに行われているが、次期以降に効果が発現されるので将来の収益との対応関係を考慮して資産として繰り延べることができる

全経上級類題

<問題2>

次の①～⑤までの引当金を、資産に係る引当金にはAを、負債に係る引当金にはBを記入しなさい (65回税理士試験)

- ①製品保証引当金 [B]
- ②事業構造改善引当金 [B]
- ③投資損失引当金 [A]
- ④債務保証損失引当金 [B]
- ⑤貸倒引当金 [A]